

ワイン産業の 持続的発展に向けて

2018年9月22日 土曜日 14:00～16:00

場所: つくば国際会議場 4階 小会議室404

参加無料(無料入場券入手方法は下記参照)

国内における酒類全体の消費量が減少傾向にある中、拡大傾向を見せてきた日本のワイン市場。その牽引役として今注目されるのが、日本産ぶどうのみを使って日本で醸造した「日本ワイン」である。日本ワインは、日本のワイン市場において年々そのシェアを増してきた。また日本ワインを海外市場に輸出する動きも活発化している。

では、日本ワインを軸としながら日本のワイン産業を持続的に発展させていくためには何が必要か。

様々な土地で生産されるワインが成功裏に生産され流通していくためには、自然環境、技術、強力な流通網、ブランド力や、関連する種々の政策がうまくかみ合わなければならない。それら条件がかみ合わさり、消費者の志向を捉えた時、国内のみならずグローバル市場での競争力を携えたワインが生産されて流通し、関連するワイン業界の様々なプレーヤーが活気付き、新規のワイナリー起業も増加し、地域社会に様々な経済効果をもたらす。そのワインはやがて、地域や国を代表するフラッグシップ産品へと成長していく。

本イベントでは、日本のワイン産業を刺激する5人のリーダー(裏面参照)が集結。日本のワイン産業を牽引してきた山梨・長野での試みを語り、2017年に「ワイン特区」に認定されたつくば市での試みを語り、近年急成長を遂げ国際的にも注目されるニュージーランドのワイン産業からヒントを探り、「ワイナリー起業・経営」の意義・極意・推進策について語る。

そして会場の方々とのdialogueを通して、日本のワイン産業の持続的発展に向けた見取り図を示していく。

- 場所: つくば国際会議場 4階 小会議室404
 - アクセス情報: <https://www.epochal.or.jp/access/>
 - 秋葉原駅からつくば駅まで「つくばエクスプレス」で45分(快速)、つくば駅から徒歩10分で会場到着
- 定員: 約50人(部屋のキャパシティの都合上)
- 参加費: 無料
 - 参加希望者はTGSW(Tsukuba Global Science Week) 2018のウェブサイト(<https://tgs.w.tsukuba.ac.jp/>)の「事前登録」をクリック頂き、①「チケットを申し込む」→②「無料入場券」(必要枚数を記入)→③「氏名・所属・役職」を記入/「参加予定セッション」(8-17「ワイン産業の持続的発展に向けて」をクリック)→④「確認画面」→⑤「チケットを申し込む」の過程を経て、無料入場券をご入手ください。
- 使用言語: 日本語
- 対象者: ワイン、ワインビジネス、ワイン産業に関心のある方であればどなたでも
- ネットワーキングセッション(軽食+ドリンク付/参加無料)
 - 本セッション当日の12:30～14:00に、TGSW 2018の全参加者を対象としたネットワーキングセッション(軽食+ドリンク付/参加無料)がつくば国際会議場1Fで開催されますので、ぜひご参加ください。
- レセプションパーティ(有料)
 - 本セッション当日の17:30～20:00に、TGSW 2018の全参加者を対象としたレセプションパーティがつくば国際会議場1Fで開催されますので、参加希望の方は、上記TGSW2018ウェブサイトから有料チケット(一般1000円/学生500円)をご購入ください。

本イベントは、本年9月20日(木)～22日(土)に開催される筑波大学主催の国際シンポジウム、TGSW(Tsukuba Global Science Week) 2018の中の一つのセッションとして実施されます。TGSW2018では、開催期間3日間において、Driving Sustainable Developmentというメインテーマに関連する40以上のセッションが開催され、世界の様々な国からの参加者がつくば国際会議場会場に集います。

日本のワイン産業を刺激する5人のリーダーが集結



船橋 清一

中央葡萄酒 東日本担当マネージャー

1982年にワーキングホリデーでオーストラリアに滞在中、ニューサウスウェールズ州ハンターヴァレーのワイナリーTYRRELL'S WINES他にて約3カ月間ブドウ収穫、醸造アシスタントのアルバイトを体験。1983年に帰国し、オーストラリアワイン及びドイツワインの輸入商社勤務。1988年再度渡豪。ニューサウスウェールズ州ハンターヴァレー テクニカル カレッジにて1年間醸造を学ぶ。オーストラリア製ヨットの造船所の経営に携わる傍ら、対日輸出ワインコンサルタント、ワイナリーツアー企画等の業務。ハンターヴァレーに自己所有のブドウ畑を所有し、自己消費用ワイン醸造。1997年帰国。1998年 山梨県笛吹市の(株)ルミエール輸入ワイン部門勤務。2001年より中央葡萄酒(株)勤務。主に東日本エリアの営業活動を担当。



花岡 純也

銀座NAGANO Nagano Wineコーディネーター

松本市出身。地元の学校を卒業し、大阪、松本のホテル、レストランでシェフを務めた後、家業である旅館の後を継ぐ。2012年に長野ワインのお店「ワケン酒場 かもしや」を立上げる。著書に「本当に旨(うま)い長野ワイン100」(イカロス出版)。「日本のワイナリーへ行こう!」長野県担当(イカロス出版)。信濃毎日新聞MGプレス、ワインコラム執筆中。現在は長野県のアンテナショップ「銀座NAGANO」のソムリエとして、東京と長野を行き来ししながら長野ワインの販促・PR活動に従事している。長野ワイン応援団代表。学校法人未来学舎 非常勤講師。信州ワイントレイン実行委員会 副会長。



蓮見喜昭

株式会社はすみふぁーむ 代表取締役 CEO/ COO

愛知県出身。10代で単身渡米。そのまま現地の高校・大学を卒業後、米国大リーグの球団職員や国内メーカーの海外営業マネージャー等を歴任し、世界中を飛び回る。今までの訪問国数約60カ国。様々な国、地域での食文化に魅せられ、特にワインに興味を持つ。その後国内ワイナリーにてワイン造りの仕事に就き、栽培・醸造・販売など、ワインビジネス全般について学んだ後、独立を決意。2005年、長野県東御市に移住。ワイン用ぶどう・巨峰栽培を中心とした「はすみふぁーむ」を設立。ワイン用ぶどうは、一本一本苗から自分の手で植えてのスタート。2009年に委託醸造によってワイン初リリース、翌年自身のワイナリーも立ち上げ、2011年より醸造開始。2013年に法人化して(株)はすみふぁーむを設立。ワイナリーを経営するかたわら、2008年より東御市議会議員として様々なまちづくり活動に奮闘中。自身のワイナリー立ち上げ秘話を記載した「ゼロから始めるワイナリー起業」(虹有社)より出版。2015年9月明治大学院ガバナンス研究科修士号取得。



中村 真太郎

ニュージーランド大使館 商務部 商務官(水産、飲料担当)

アメリカサンフランシスコにて現地校にて中高6年間過ごす。2001年上智大学 比較文化学部卒、2002年大手信託銀行の年金運用部にてプライベート・エクイティ担当。2009年オランダNyenrode経営大学院修士課程修了(MBA) 2010年大手水産会社の経営企画部にて海外投資案件などを主に担当。2014年よりニュージーランド大使館商務部 商務担当官としてワインと水産を担当。



猪 圭

つくば市経済部 農業政策課 農業政策係 主任

2007年に筑波大学大学院経営政策科学専攻修了。2007年にベンチャー広告代理店へ入社し、大手飲料メーカーや携帯電話等のプロモーションを企画運営。2011年に茨城県つくば市役所に入庁し、IT戦略やシティプロモーションの部署で市公式のSNS等情報の受発信を中心に担当。2016年4月より農業政策分野でワイン産業の振興や農業体験イベント等を担当。

<オーガナイザー>



兎玉 徹

筑波大学准教授/ 一般財団法人国際貿易投資研究所客員研究員

株式会社電通、九州大学芸術工学部准教授、コロンビア大学ロースクール等客員研究員、駐日スウェーデン大使館科学イノベーション部アナリスト等を経て、現職。一般財団法人国際貿易投資研究所客員研究員、国立民族学博物館外来研究員を兼務。東京都立大学卒、大阪大学大学院国際公共政策研究科修士修了、博士中退。英国で法曹養成課程を修了。ロンドン大学キングスカレッジ校ロースクールよりLL.M.取得。英国弁護士会会員。本年度よりワイン産業に焦点を当てた3カ年の科研費プロジェクトを推進中。